

令和6年度 特別推薦型選抜 小論文（第二部 商経学科）解答例

問1（40点）

【採点のポイント】

- ・従属人口指数を踏まえた対比をしながら、違いが論じられているか。
- ・論理的に説明できているか。

【解答例】

人口は、15歳から64歳の働く現役世代（支える側）と、0歳から14歳及び65歳以上の年少・高齢世代（支えられる側）に分けることができる。

「人口ボーナス」とは、支える側の人口が支えられる側の人口を上回っていることで、支えられる側1人の扶養を、支える側は1人以上で余裕をもって負担することができるため、社会全体で余剰が生まれ、その後の経済発展につながる投資に回すことが可能となることをいう。

一方、「人口オーナス」とは、支える側の人口が支えられる側の人口と等しいか下回っていることで、支えられる側1人あたりの扶養を、支える側1人または1人未満で負担することとなり、社会全体でその後の経済発展につながる余剰が生まれにくいことをいう。

(307字)

問2（60点）

【採点のポイント】

- ・少子高齢化の進展によって生じる問題を取り上げ、説明ができているか。
- ・必要な対策を論理的に記述できているか。

【解答例】

私は、少子高齢化の進展によって、働く現役世代の負担がますます厳しくなり、さらに少子化を加速させることが問題だと考える。鹿児島で暮らす私たちから見ると、すでに親世代も人手不足で労働時間が長く、その割に給料もなかなか上がらない。少なくとも私は、この状態で将来子供をたくさん育てようとは思えない。

この問題を改善するための対策として、働く人の給料を引き上げていくことが大切である。特に鹿児島においては若者の県外流出も多く、それが問題の深刻化に拍車をかけている。そこで最低賃金をはじめとして、鹿児島で働く人の給料を引き上げていく政策を実施すれば、県内に人を呼び戻す原動力になるだろう。あるいは、県外や国外から人を呼び込むこともできるようになるかもしれない。

(323字)